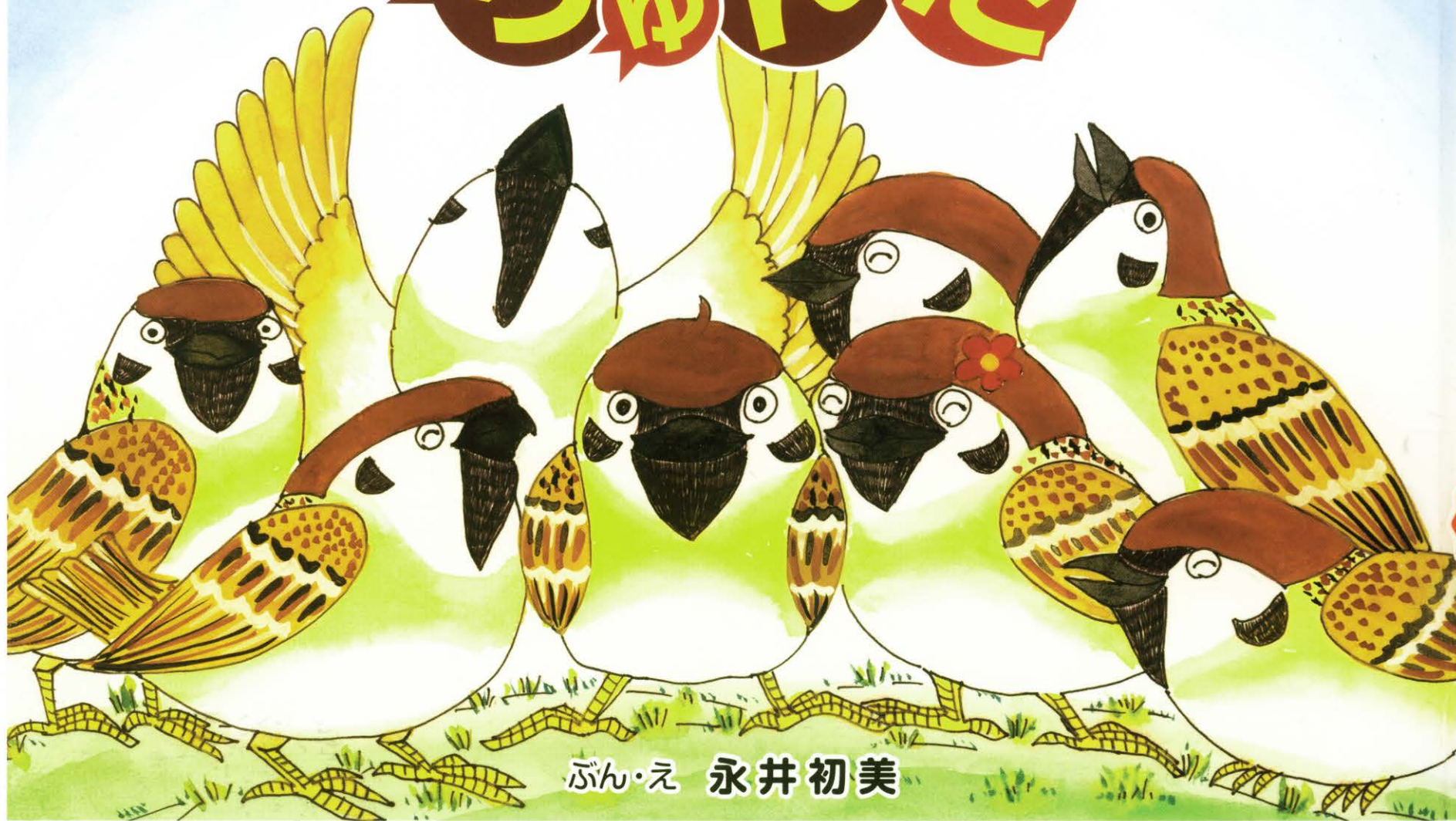


第7回とよた絵本コンクール最優秀作品

ちゅんた



ぶん・え 永井初美

ちゅんた



ぶん・え 永井初美



ちゆんたのお父^{とう}さんとお母^{かあ}さんは、小^{ちい}さいちゆんたを
残^{のこ}して死^しんでしま^まいました。

スズメは群^{むれ}でくらすので、ちゆんたも群^{むれ}の中^{なか}で

他^{ほか}のスズメと一^{いっしょ}緒^{しょ}にくらし^しました。

秋^{あき}の終^おわりには、田^たんぼにこぼれた米^{こめ}の粒^{つぶ}を食^たべました。



夜よるになると、みんなと一緒いっしょに、森もりのねぐらで寝ねました。

そのときには、ちよっぴりさみしくなりました。

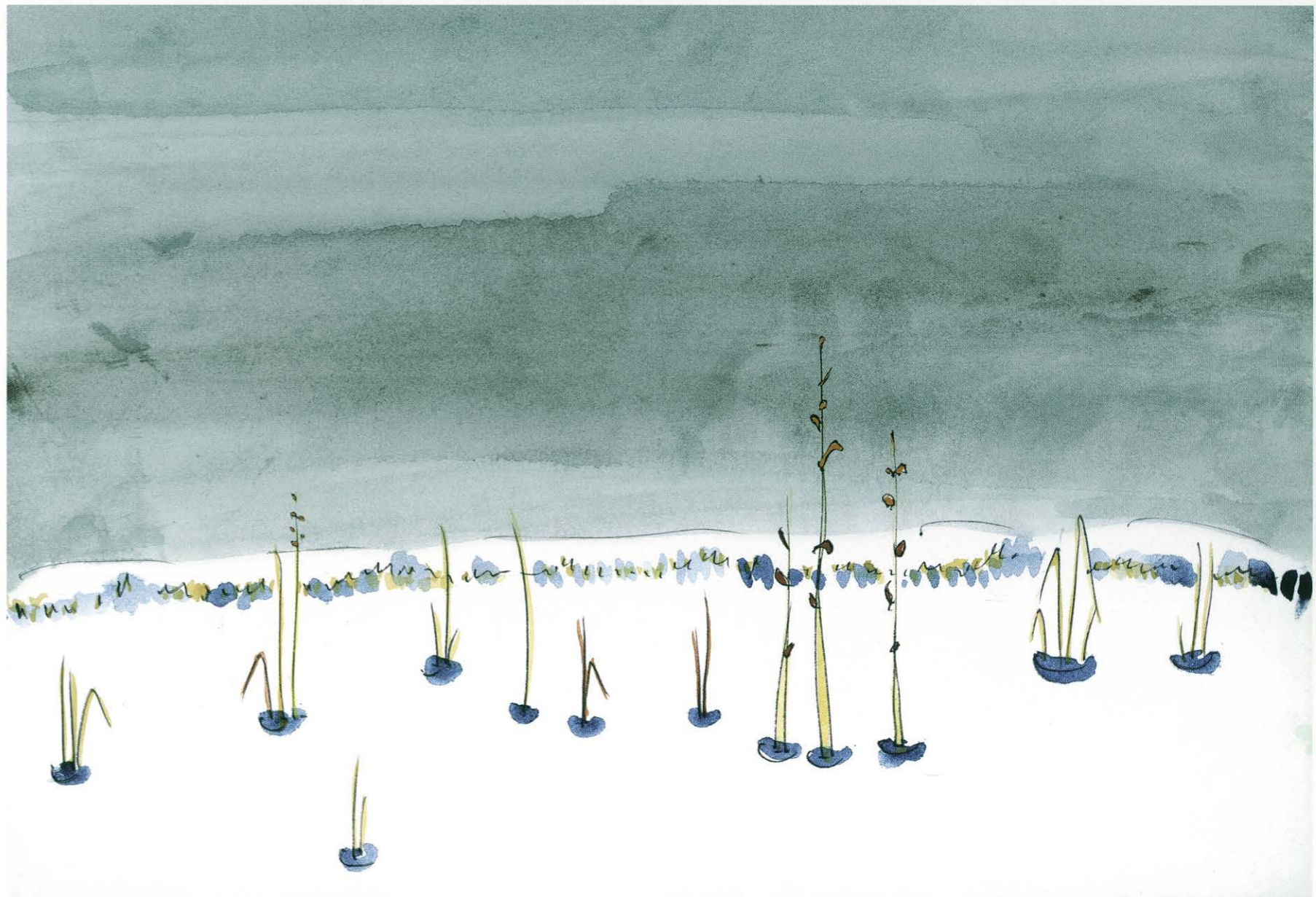


朝あさになると、一斉いっせいに飛び立つた群むれを追いかけて、

小さなつばさで一生いっしょうけんめい飛びとびました。

セイタカアワダチソウのこおばしい実を食^たべました。
ぷちぷちした、エノコログサの実も食^たべました。





ある時^{とき}すっかり冬^{ふゆ}になり、食^たべ物がなくな^もったので、

スズメたちは困^{こま}ってしまいました。

ちゆんたは小^{ちい}さい声^{こえ}で言^いいました。

「ぼくのお父^{とう}さんが言^いっていたよ。

野^の原^{はら}に食^たべ物^{もの}がなくな^もったら公^{こう}園^{えん}に行^いきなさいって」

群^{むれ}のスズメたちは、とてもおなかがすいていたので、

行^いってみることにしました。



公園には、オオバコの実が落ちていました。

それから、うれしいことに、タンポポの実も、

残っていました。

スズメたちはおなかいっぱい食べました。

しばらくすると、いじわるなヒヨドリに追いはらわれて

しまいました。



スズメたちは、

また食^たべるものがなくなってしまいました。

「お母^{かあ}さんが言^いっていたよ。

どうしても食^たべ物^{もの}がない時^{とき}には

精米所^{せいまいじょ}へ行^いきなさいって。」

ちゆんたがそう言^いったので、

スズメたちは、精米所^{せいまいじょ}へ行^いきました。

そこには、米^{こめ}の粒^{つぶ}や米ぬか^{こめ}が散^ちらばっていました。

こうして、ちゆんたの群むれのスズメは、
食たべ物ものの少すくない冬ふゆを、力ちからを合あわせて乗のり越こえました。





何回も、朝が来て、夜が来て、

だんだんあたたかくなってきたある朝、

ちゆんこが言いました。

「ちゆんた。もう朝よ。

今日、私たちの群はどこへ行くの？」



「どうしてぼくに聞くの？」

「だって、あなたはとても頼りになるもの。」

気がつくと、

ちゆんたのくちばしの黄色いところはなくなり、

つばさも強くなっていました。

話し声で目が覚めた他のスズメたちも

「ちゆんた、今日はどこへ行くの？」

と、聞いてきます。



「よし。じゃあ今日は、

道慈山の梅が咲いているかどうか見に行こう。

あそこの梅は、一番に咲くんだよ。」

ちゆんたの一声で、群は一斉に飛び立ちました。

先頭はちゆんたです。

早春の風をつばさに受け、

ちゆんたの胸は誇らしい気持ちでいっぱいでした。

著者プロフィール

永井初美

岐阜県土岐市で生まれ、旧小原村に嫁ぎ、現在は豊田市立道慈小学校の教員です。

趣味は自然観察です。

著者コメント

何かに驚いたスズメが「ひーっ」と言わんばかりに必死で羽ばたく後ろ姿が、かわいくて大好きです。年々数が減っているスズメたちへの応援歌としてお話を作りました。

ちゅんた

2010年1月20日 初版第1刷発行 著者／永井 初美(ながい はつみ)

発行／豊田中央図書館 〒471-0025 豊田市西町1-200

印刷・製本／三河印刷株式会社

©第7回とよた絵本コンクール

主催／豊田中央図書館 主管／とよた絵本コンクール実行委員会

後援／財団法人豊田市文化振興財団

第7回とよた絵本コンクール

2005年に開催された愛・地球博のテーマ『自然の叡智』の理念を継承し、心のこもった夢あふれる絵本を通じて、次世代を担う子どもたちに、21世紀に生きるためのメッセージを残そうというものです。



